

自己の生き方を高めるために、自ら課題を見つけ、学び考え、主体的に判断して課題を解決していく資質や能力の育成

～他との関わりの中で自己の生き方を高める体験活動を通して～

日上市立泉丘中学校

## 1 はじめに

今の子供たちは、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展など社会の変化が激しい時代に生きている。そのような時代に、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくことができる子供たちの育成が求められている。

そこで、本校では自己の生き方を高めるために、自分に合った職業を見つけ、職場体験をしたり、どのような視点で礼状を書けばよいのかを考えたりすることで、自ら課題を見つけ、学び考え、主体的に判断して課題を解決していく資質や能力を育成したいと考えた。

## 2 指導案

### 第2学年 総合的な学習の時間活動案

- (1) 単元名 様々な生き方を見つめよう（職場体験学習）
- (2) 単元の目標
  - ① 自らの課題について調べたり、体験活動をしたりして、課題についての多様な見方・考え方ができる。（課題解決に必要な能力）
  - ② 書籍やIT機器による調査、現地調査、体験活動などにおいて、自らの課題に対応して情報収集し、自分の考えをもつことができる。（思考力・判断力・表現力）
  - ③ 自分の生き方や人の生き方について、多様な見方ができ、自分なりの価値を見いだすことができる。（学びに向かう人間性）
- (3) 単元について
  - ① 単元観

望ましい勤労観、職業観の育成を図る教育はこれまでも行われてきたが、今ではより一層大切になってきている。職場体験学習は、生徒が実際的な意識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことの意義を理解し主体的に進路を決定する態度や意志、意欲などを培うことのできる教育活動として重要な意味をもっている。また、多くの職業人との触れ合いや交流を通して、異世代とのコミュニケーション能力を高めるとともに、社会人としての基本的マナーや言葉遣いなどを身に付けることができる場でもある。核家族化や都市化が進む中で、異世代との交流が減少し、あいさつができない、コミュニケーションがうまく図れないといった若者が増えていくという指摘もある。このことからコミュニケーション能力や社会的スキルを身に付ける上でも職場体験学習の果たす役割は大きい。

本単元は、自分たちの住んでいる地域の人との触れ合いに視点を当て、生徒一人一人の特性や興味・関心に基づき、自分の生き方について考えることを目的としている。また、職場体験学習という地域の生きた教材を取り入れることで、働きがいや生きがいについても、自ら学ぶことができると考え、本単元を設定した。

② 生徒の実態

1年次での総合的な学習で、「職業について考えよう」というテーマで探求的な学習を行った。職業人を招き、インタビュー形式で、仕事のやりがいや苦勞、その職業を選んだ動機などを聞き取り、得た情報を新聞にまとめ、発表する表現活動を行ってきた。

7月に行った生徒の意識調査では、下記のような結果が得られた。この結果から、第2学年の生徒は、将来について真剣に考えている生徒が多いことが分かる。また、自分の経験の中で達成感や充実感を感じている生徒も多い。そのため、職場体験学習は、将来についての考え、自分の生き方を更さらに深める絶好の活動と考える。

ア：よくあてはまる イ：ややあてはまる ウ：あまりあてはまらない  
エ：まったくあてはまらない

設 問	ア	イ	ウ	エ
1. 将来の夢や目標をもっている。	91名 (45.0%)	66名 (32.7%)	35名 (17.3%)	10名 (5.0%)
2. 物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある。	131名 (64.9%)	57名 (28.2%)	13名 (6.4%)	1名 (0.5%)
3. 難しいことでも、恐れなくて挑戦している。	44名 (21.8%)	119名 (58.9%)	37名 (18.3%)	2名 (1.0%)
4. 自分には良いところがあると思う。	45名 (22.3%)	97名 (48.0%)	46名 (22.8%)	14名 (6.9%)

(4) 単元の評価規準

観 点	評価規準	評価の方法
課題解決に必要な能力	①働く人と自分たちの評価を基に、自分の「働くこと」の捉えのズレに気付き、追求課題を設定している。 ②将来の働く姿の予想を基に、今の自分に求められていることについて新たな課題をもっている。	・ワークシート ・行動観察
思考力・判断力 ・表現力	①ウェビングを用いて「働くこと」に対する自分の捉えを付け加えたり、関連付けたりして整理している。 ②働く人の思いやこだわりを尊重し、自分の考えを伝えたり、働く人の考えを受け止めたりしている。	・制作物 ・ワークシート ・行動観察
学びに向かう人間性	①地域で働く人の存在を確認し、それぞれの職業の必要性や特徴をまとめている。 ②「働くこと」の捉えを基に、学校や社会の中で自己の今後の関わりを明らかにしている。	・ワークシート ・制作物

(5) 指導と評価の計画 (全30時間)

第1次	オリエンテーション	1時間
第2次	課題の設定	4時間
第3次	情報の収集	12時間
第4次	情報の整理・分析	5時間

次	時間	学習活動・内容	評価規準及び評価の方法
4	1	・収集した情報を項目ごとに整理する。 ・収集した情報をもとに振り返りをする。	◎収集した情報をワークシートに整理して書くことができる。 [資料収集能力・表現力] (ワークシート)
	2		
	3	・職場体験学習の振り返りをもとに、	◎収集した情報を整理し、自己の生

本時	自分の生き方について考える。 ・職場体験学習の振り返りをもとに、事業所に礼状の下書きを書く。	き方について考えることができる。[自己の生き方]（ワークシート）
4	・礼状の清書を完成させる。	○収集した情報，感じたことを共有することができる。 [資料収集能力・表現力]（観察）
5	・職場体験学習での疑問点やさらに深めたい点について調べる。	◎インターネットや書籍を使って情報を収集することができる。 [資料収集能力・表現力]（ワークシート）

第5次 まとめ・表現・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8時間

(6) 本時の活動

① 目標

職場体験学習後の振り返りをもとに，お世話になった事業所に感謝の気持ちを込めて，礼状を書くことができる。

② 準備・資料

・トライアルハンドブック，画用紙，付箋（赤・青・緑），礼状（下書用紙，清書用紙），礼状の書き方（掲示用）

③ 展開

活動内容	指導上の留意点， 学び合いの具体的な施策 評価（◎）
1 本時の学習内容の確認をする。【一斉】 ・本時のねらいを確認し，見通しをもつ。	・トライアルハンドブックを読み返し，これまでの学習内容を想起させる。
2 前時までの学習を振り返る。【一斉】 ・トライアルハンドブックP17で，各自が書いた反省を確認する。	・体験活動を通して，各自で出た反省や気付いたことが本時の学習で最も大切なることを伝える。
3 「職場体験で頑張ったこと，反省すべきこと」について話し合う。 ・付箋を用いて，自分の考えを整理する。【個人】  ・事業所ごとにグループになり，KJ法で意見を共有し合う。【グループ】 ・出された意見をグループ化し，名前をつける。【グループ】	学 考えを話したり，聞いたりすることで，自分の考えと比較し，違う考え方の良さに気づき，考えが深まるように助言する。 ・なかなか意見が出てこない生徒がいた場合は，体験した活動をイメージさせ，その時の気持ちを想起させる。 ・各事業所グループに画用紙を配付し，意見を書いた付箋をグループ分けするよう指示する。 ・活発な話し合いができていないグループは，教師が参加し，指導・助言を行う。
4 事業所ごとに出た意見を全体で発表し，共有し合う。【一斉】	
5 共有した意見をもとに，礼状の下書きをする。【個人】	・礼状の書き方を確認し，自分の気持ちを素直に表現するよう支援する。
6 本日のまとめをする。	

### 3 実践の様子

#### (1) 職場体験

(多賀消防署)



(JWAY)



(ベイシア)

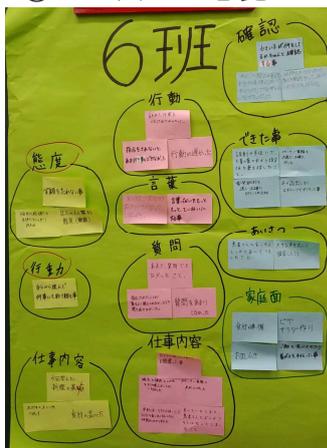


(矢部動物病院)



#### (2) 授業での様子

##### ① KJ法での意見



##### ② 礼状

行啓 疾やかな秋風の吹く頃となりました。  
さて先日の職場体験学習では大変お世話になりました。  
おかげさまで仕事にも必要な礼儀を学ぶことができてました。  
本日は様子は数多くの名刺をポイント検して最初は大変お世話になりました。先生の意見を  
で大変な仕事も大切だと思えました。  
二日間の職場体験でいろいろな仕事を体験させてもらいました。二日目の体験  
で先生の点検を見て、みんなに早く点検をやるのがいいなと思いました。  
この職場体験で初めてした仕事の大変さや点検の大切さや仕事の内容がわかりました。  
そして仕事に興味があるから、これからもこの仕事の内容を学んでいきたいです。  
になりました。先生は私たちが職場体験を愛するのを見てうれしかったです。  
平成三十年 九月二十八日  
日本五東丘中学校 二年 月 日 瑞海愛  
敬具



### 4 成果と課題

本時の学習では、同じ事業所同士で話し合ったので、考えを話したり、聞いたりすることで、自分の考えと比較し、違う考え方のよさに気づき、考えを深めることができた。また、職場体験から体験発表会までの活動を通して、他との関わりの中で自己の生き方を高める活動ができ、自己の生き方を高めるために、自ら課題を見つけ、学び考え、主体的に判断して課題を解決していく資質や能力の育成を図ることができた。

今後の課題としては、1年生から自分の生き方を見つめ、適性をふまえた上で職種や事業所を選び、目的意識をしっかりとって体験活動や報告会ができるように計画を立てていくことが必要であると考え。特に、やりたいことが見つけれない生徒には、総合的な学習の時間のみならず、普段の生活でよさを見つけ、声かけをするなどして自己肯定感を高めていきたい。